

平成26年9月26日
野菜業務部 直接契約課

第23回加工・業務用野菜産地と実需者との交流会（国産野菜の契約取引マッチング・フェア in 札幌）の概要について

8月26日（火）、サッポロファクトリーホール（西館）（北海道札幌市）において、北海道地方では初の開催となる標記交流会を開催しました。その概要は、以下のとおりです。

1. 出展者・来場者

今回は、全国各地から67の事業者・団体が出展し、このうち初出展者は34（うち、生産者・生産者団体21、流通・加工業者8）でした。また、地元・北海道からの出展は39で、全体の約6割を占め、出展者からは、生産者間の情報交換の場として、交流会を評価する声がありました。



来場者数については、地方開催としては、昨年秋の福岡開催に次ぐ450名に達するなど、会場が終日賑わいを見せるなかで、積極的な商談も行われました。

- ・出展者数 67（うち、生産者・生産者団体29、流通・加工業者17）
- ・来場者数 450（うち、量販店・小売37、卸・仲卸・流通166、食品製造・加工・メーカー49、中食・外食等41、マスコミ44）



2. 特別商談会

マッチングの成果をさらに後押しするため実施している「特別商談会」（野菜ビジネス協議会及び青果物カット事業協議会の会員企業等と出展者を結びつける、個別・予約制の商談会）には、実需者5社に対し16の生産者等が参加し、27件の商談が精力的に行われました。



3. 加工・業務用野菜対策についての説明会

セミナー会場では、農林水産省の担当官と連携しながら、機構職員により、リレー出荷の特例措置を含む契約野菜関連事業について、説明会を行いました。



4. 野菜産地と実需者とのセミナー・パネルディスカッション

また、同会場では、野菜ビジネス協議会主催の「野菜産地と実需者によるセミナー・パネルディスカッション」が開催されました。産地側及び実需者側からの話題提供ののち、

(一社) J C 総研客員研究員の仲野隆三コーディネーターと、産地側2名（鹿追町農協 営農部農産課考査役 今田伸二氏、(有) 植物育種研究所代表取締役 岡本大作氏）、実需者側2名（(株) トップ・ラン取締役業務部部长 本多隆文氏、(株) 彩喜取締役社長 木村幸雄氏）によるパネルディスカッションが行われました。そこでは、加工・業務用向け品質



基準についての産地側・実需側双方の合意の重要性や、異常気象対応としての複数産地の確保、物流構造の見直しなど、様々な議題について、活発な意見交換が行われ、100名近くの参加者が熱心に耳を傾けていました。

5. 試食コーナー

出展者が持ち寄った「自慢の野菜」をサラダバー・ドリンクバー形式で来場者が自由に試食できるのが、この「試食コーナー」です。

今回は、29の出展者が持ち寄った70種類近くの野菜等が順次陳列、提供され、多彩な種類のサラダや野菜ジュースを求める来場者で、終日盛況でした。

同コーナーについては、来場者から「直接試食して、生産者とお話しできた」といった声が聞かれるなど、商談の足掛かりとしてご活用いただけました。



6 アンケート結果

回答数 382 件のうち、95%の方から「役に立った」との回答があり、高い評価を頂きました。その理由としては、「情報交換ができた」(59%)、「参考となる情報が得られた」(48%)、「興味を持った相手先があった」(37%)といった声が多く寄せられました。

○来場者からの交流会に対する主な意見

良かった点	今後の改善、要望等
<ul style="list-style-type: none">・さまざまな業者、研究者、生産者等が生き生きと交流しているのがよかった。・全体的にディスプレイに工夫が感じられ、参考になった。・高品質な野菜をしっかりと作り、商談が進められた。・新しい仕入先が見つかった。	<ul style="list-style-type: none">・ほかの地方でも実施してほしい。・もっと出展者数を増やしてほしい。・新メニューや、新しい利用法なども提案してほしい。・見本やサンプルの展示があると良い。・不在のブースがあった。

※第23回交流会の開催概要(詳細)については、当機構が発刊している野菜情報11月号に掲載します。

URL : <http://www.alic.go.jp/>

野菜情報

で検索